初のヘルマンさん生誕祭 紙芝居や墓参りでしのぶ

第一次世界大戦の捕虜として来日、日本に食肉加工技術を伝え、狛江にハム・ソーセージ工場を作ったドイツ人ヘルマン・ウォルシュケさんを顕彰する「第1回ヘルマンさん生誕祭」が7月26日㈯、墓がある泉龍寺仏教文庫で開かれた。

「ヘルマン・ウォルシュケさんの足跡をたどる会」（飯田吉明代表）が催したもの。同会が制作した「ヘルマンさんとソーセージ」「ヘルマンさんのおはなし」の２つの紙芝居を、文庫活動をしている菅原陽子さんが、情感たっぷりに上演した。その後参加者は、生地のゼンフテンベルク市長から贈られた花などが飾られたヘルマンさんの墓に参り、その人柄と業績をしのんでいた。

ヘルマンさんの墓参り

猛暑の中で水鉄砲バトル 多摩川で160人が参戦

水鉄砲バトルで多摩川に親しんでと、７月26日㈯多摩川河川敷で「狛江かわまちウォーターバトル」（狛江市主催）が催された。

「狛江市かわまちづくり計画」に基づく社会実験の一環で、5人1組16チームによるチーム戦、20人対20人のフリーバトルが行われ、小学生以上の延べ160人が参戦した。水鉄砲バトルは、頭につけた的が破れたり取れたら退場し、残った人数が多い方が勝つというルール。猛暑の中で子どもも大人も年齢を忘れてバトルを楽しんでいた。

水鉄砲で白熱のバトル

オール狛江が準優勝 都学童選抜野球大会

第20回東京都学童選抜野球大会（台東区少年軟式野球連盟・墨田区少年野球連盟共催）でオール狛江が初の準優勝に輝いた。

準優勝したオール狛江

大会には都内から31チームが出場、7月13日㈰、20日㈰、21日㈪の3日間にわたって試合が行われた。オール狛江は市内４チームの６年生16人で編成、オール砂町、オール葛飾、オール練馬、オール江戸川を破って決勝に進出。21日の決勝戦でオール調布と熱い戦いを展開、持ち前の打力で追い上げたものの６対７の１点差で涙を飲んだ。

この大会ではこれまで１、２回戦で敗退しているだけに、選手や保護者、狛江市学童軟式野球連盟の関係者たちは喜んでいた。

子どもに折り紙指導 作る楽しさを伝える

夏休み木工教室（東京土建一般労働組合狛江支部主催）が8月3日㈰に猪方３丁目の同支部で催され、子どもたちがティッシュケースや本立てなどの工作に取り組んだ。

この日は折り紙教室も行われ、市内在住で『80歳からでも若返る　すごい脳活おりがみ』の著者伊達博充さんが子どもたちに創作した犬や牛などの折り方を丁寧に指導した。

伊達博充さん（左から２人目）から折り紙を習う子どもたち

ウエイトリフティング 安田さん祖父と孫が栄冠

狛江市岩戸南の狛江第二中学校1年安田理さん（12）が7月20日㈰・21日㈪に茨城県高萩市で行われた第39回全国男子中学生ウエイトリフティング選手権大会（日本ウエイトリフティング協会主催）の96kg級でスナッチ67kg、クリーン＆ジャーク90kg、トータル157kgで２位となり、全国大会で初のメダルを獲得した。

理さんは、同居している祖父の安田順亮さん（81）の影響で小学３年生から本格的にウエイトリフティングに取り組み、４年生の時、都大会で優勝するなど好成績を収めてきたが、全国大会ではメダルに届かなかった。

念願の初のメダルを手に「いまでは自分で作戦を考えられるようになり納得がいく準優勝だったが、次は優勝を目指します」と意欲をみせていた。

安田理さん（左）と順亮さん

順亮さんも若い頃取り組んだウエイトリフティングを再開、昨年12月に愛媛県新居浜市で行われた第42回全日本マスターズウエイトリフティング競技選手権大会の67kg級の80G（80~89歳）に出場、スナッチ40kg、クリーン＆ジャーク40kg、トータル80kgの大会新記録で優勝。６月22日㈰の都ウエイトリフティング大会で三宅義行日本ウエイトリフティング協会名誉顧問から特別表彰された。

バングラデシュ料理楽しむ 27日に国際交流サロン

バングラデシュ料理を楽しむ国際交流サロンの参加者を狛江市国際交流協会が募集している。

27日㈯午前10時から西河原公民館でチキンビリヤニ、サラダなどを作って楽しむ。定員は作って食べる人、食べる人各24人。参加費は交流協会会員・外国人500円、一般800円、中学生以下200円。申し込み予約は二次元コード（作って食べる→左、食べる→右）から。

問い合わせM info@komae-kifa.com国際交流協会。

Start & Challenge　家庭の水害対策「雨庭」作り

雨水の流出を抑制する「雨庭」の整備を通じて防災意識を高め、地域住民の交流を広げるというコミュニティガーデン事業が行われている。

シェアカフェや子どもの文化体験などの地域活動を行っているPLATHOME労働者協同組合（飯野健一代表理事）が、令和7年度狛江市市民公益活動事業補助金のチャレンジ補助金を受けて実施している。

雨庭は、雨を一時的に地中に貯め、ゆっくり地下へ浸透させる植栽空間で、家庭でできる水害対策として世田谷区などで取り組みが始まっている。事業では、東野川4丁目の同組合敷地内に約2㎡の雨庭を設置。市内在住の自然観察指導員鈴木朱美さんの指導で、6月に見学会と勉強会、7月に狛江の竹炭やヤナギを使った土壌改良や柵作りで庭を整えた。9月に深さ10～30cmの地中に軽石などの浸透貯留材を敷き、その上に化粧砂利を敷いて仕上げる予定で、参加者を随時募集中だ。1回のみの参加も可能。日程・申し込みは同組合のInstagram（→）参照。問い合わせEメールM info@plathome.space飯野さん。

雨庭作り

Shop & Service Guide いらっしゃいませ …48

狛江ラジオ放送㈱

月間約60本の番組を自社製作 災害時は地域の生活情報を発信

「コマラジ」の愛称で親しまれる狛江ラジオ放送株式会社は、災害時には行政と連携し必要な情報をいち早く伝えるコミュニティーＦＭ局で、令和元年11月に本放送を開始した。

市民や市内で事業を営む「狛江人」のためのメディアを目指し、狛江青年会議所の会員やOBなど数人が開局準備委員会を作り、平成28年から準備を進めた。

開局直前の10月12日に台風19号で水害が発生した際は、総務省の許可を得て、狛江市と連携して災害情報を伝え、コミュニティーFMの有効性を示した。

松崎学社長（57）によると、その経験から災害時の対応に特に力を入れており、スタッフの多くが市内や周辺に住んでいるため、災害時に緊急放送を流すまでの所要時間が全国のコミュニティーFMの中で特に速いのが特長だという。

コマラジのスタジオと松崎社長

放送は24時間だが、午前７時から翌日午前２時にかけて自社で製作した月間約60本の番組を放送している。内容は地域情報をはじめ、文化や経済などバラエティーに富んでおり、市内外の様々な分野で活躍している100人以上がパーソナリティーを務めている。市内の小学校の情報を紹介する「給食いただきます！」が子どもたちに人気を集めるほか子ども主体のイベントを積極的に取材している。市内の中学校の職業体験も受け入れており、将来のリスナーの獲得にも力を入れている。

また、狛江市から委託を受けて、戦後80年にちなんだ「戦後80年 狛江市民平和の語り部」や水防訓練の中継、議場結婚式の運営なども担当している。

ラジオ放送だけではなく、投稿型まちアプリ「コマエノ」を通して事業所などの情報を市民に伝える事業を展開。アプリは地域情報のほか、市内100以上の店の特典がサブスクで使える「コマラジ応援パスポート」、クーポン、不用品出品などの機能を備えており、好評だ。

同社では今後、放送事業の経済的な安定を図るとともに、地域のイベントや小・中学校との連携を深めるなど地域情報を充実させ、さらに市民に役立つ存在になるよう努めていく方針。また、放送が聴きづらい地域への対策として、VHFアンテナの活用や情報収集の手段として衛星を使ったインターネットアクセスサービス「スターリンク」の利用調査など通信環境の改善にも力を注ぎたいとしている。松崎社長は「災害時には必要な情報を届けますので、普段からラジオを聴く習慣を身につけて下さい」と呼びかけている。

☎5761-7755　中和泉1-2-6プラザエクセル2階
無休